

三条市子ども・若者総合サポートシステム
平成 25 年度活動実績・平成 26 年度活動計画
【障がい支援部会】

《平成 25 年度活動実績》

1 障がい支援部会 対象者の把握状況と対応

(1) 把握件数（平成 26 年 3 月末現在）

区分	障がい			
人数（人）	322			
他の区分と重複している件数	虐待 8	非行 4	不登校 10	若者 1

(再掲)「個人情報の取扱いに関する同意書」提出件数

区分	障がい
人数（人）	48

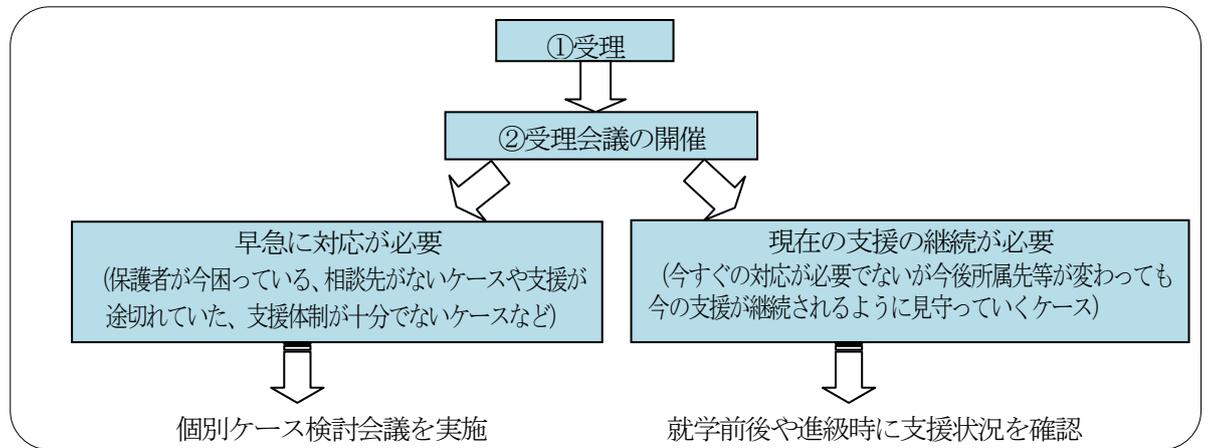
(参考 1) 平成 26 年度特別支援学級に在籍する児童生徒数ならびに学級数

学級種別	市内小学校		市内中学校		計	
	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
知的障害学級	17	65	10	46	27	111
自閉・情緒障害学級	21	92	9	40	30	132
その他（肢体不自由・病虚弱）	2	4	1	1	3	5
合 計	40	161	20	87	60	248 (3.1%)

(参考 2) 平成 25 年度通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒数

問題項目	市内小学校		市内中学校		計		国の平均
	人	%	人	%	人	%	%
学習面か行動面で著しい困難を示す	423	8.3	90	3.2	513	6.5	6.5
学習面で著しい困難を示す	260	5.1	48	1.7	308	3.9	4.5
行動面で著しい困難を示す	256	5.1	65	2.3	321	4.1	3.6
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	93	1.8	23	0.8	116	1.5	1.6

(2) 「個人情報の取扱いに関する同意書」受理後の対応



(参考) 同意が無い「障がい」把握者への支援

乳幼児の場合→保健師、保育所（園）、幼稚園の保育士等の支援

小中学生の場合→学校での通常支援及び、通級指導教室（三条小学校・長沢小学校）や市が委嘱した特別支援学校職員による専門指導員の巡回支援等

2 障がい支援部会 会議開催状況

会議名	回	月 日	場 所	内 容 等	参加機関数
実務者会議	第1回	9月20日	三条市役所 栄 庁 舎	<ul style="list-style-type: none"> ・すまいるファイルの活用場面 ・就学・就労・進学等の接続期を迎える発達障がい児に対する支援の現状及び、課題について 	18機関
個別ケース 検討会議		実1件 延1回		発達障がいがある子どもの卒業後の支援について引き継ぎを行った。	

3 研修会・講演会

会議名	月 日	場 所	内 容 等	参加人数
発達応援セミナー	第1回 8月6日	燕三条地場産センターリサーチコア	演 題：「障がい者を活かすスワンベーカーリーの愛と正義と勇気の話」～就労に必要な障がい者の能力開発のための支援のあり方～ 講 師：(株)スワン 社長 梅津 歩 氏 対象者：小中学校教職員	237人
(発達応援講演会)	第2回 26年 2月15日	三 条 市 総合福祉センター	演 題：「子どもの ^{ちから} 能力をのばすためにできること ～かかわり方で子どもは伸びる～ 講 師：新潟大学教育学部 教授 長澤 正樹 氏 対象者：市民	140人
専門研修会	26年 3月4日	栄庁舎	就学前における子どもの支援の実際について ～三条っ子発達応援事業の紹介及び、子ども発達ルーム施設見学～ 対象者：小中学校教職員、保育園（所）・幼稚園職員、支援機関職員等	68人

4 成果・課題

活動の成果	活動から見えてきた課題
<ul style="list-style-type: none"> ・実務者会議や専門研修会を通し、所属機関や支援機関との間で各々が抱える課題や現状の共有ができ、実務者自身が将来を見据えて支援を考えるなど今の支援を振り返るきっかけにつながった。 ・支援のツールとして、保健師が中心にすまいるファイルに就学前の子どもの現状や課題、支援方針等を記録し、保護者が就学相談や就学後担任との面談の場で持参し情報の引き継ぎを行い、有効に活用した例がみられた。 ・発達ルームでの指導過程を就学先の小学校に個票として引き継いだ。また、幼保小の連携と合わせ小学校の訪問を実施し、就学後の状況確認を行い、支援者が顔を合わせ、情報共有したことで支援の引継ぎがよりスムーズになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援ツールとして「すまいるファイル」の活用を促進するために、就学相談や入学後の学級担任との教育相談など具体的な活用場面を提示し、保護者・関係機関にさらに周知していく必要がある。 ・登録者の義務教育卒業後の支援体制がシステム化されていない。校種が変更になる際に、登録者の情報について発信していくことが必要である。 ・保護者や実務者がシステムに登録したメリットを十分に実感していない現状がある。定期的な状況確認により、システムに登録する保護者のメリットを実感していただく手立てが必要である。

《平成 26 年度活動計画》

1 会議開催予定

会議名	回	月	場 所	内 容 等
実務者会議	第 1 回	9 月	三条市役所 栄庁舎	発達障がい支援体制について（仮）
	第 2 回	1 月	三条市役所 栄庁舎	第 1 回で出された問題及び課題について検討
個別ケース 検討会議	随時	支援体制の検討が必要なケースについて関係者で検討を行う。		

2 周知活動

(1) 市民に対して

- ・ 早期療育事業等の利用児をはじめとする小学校就学前の子どもの保護者に対し、子ども・若者総合サポートシステム及びすまいるファイルについて周知
- ・ 早期療育事業利用者や加配対象児の保護者へすまいるファイル「支援の記録」の活用の周知

(2) 関係機関に対して

- ・ 保育所や関係機関の実務者に対し、支援が必要な子どもに関するすまいるファイルの活用について周知ならびに登録者の情報提供
- ・ 小中学校の特別支援コーディネーター等を対象に、子ども・若者総合サポートシステムの運用及びすまいるファイル活用について周知

3 研修会・講演会

題名		月 日	場 所	内 容 等	参加 予定人数
発達障 援セミ ナー	第 1 回	8 月 8 日	体育文化センター	演 題：就労に向けて 講 師：大山泰弘氏（日本理化学工業会長） 対象者：小中学校教職員	300 人
	第 2 回	未定	総合福祉 センター	演 題：未定 講 師：未定 対象者：市民	150 人
専門研修会		未定	未定	就学後の障がい児支援に関するテーマ 対象者：実務者等	50 人